様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月　 ４ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ１６９７２

研究課題名（和文）法および社会規範の系統学的研究

研究課題名（英文）Phylogenetic study on law and social norms

研究代表者
飯田　高（Iida, Takashi）

東京大学・社会科学研究所・教授

研究者番号：７０３４５２４７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、法や社会規範などの社会的ルール（共同体における協力規範・取引ルール・組織ルール）がいかなる系譜を辿って形作られてきたかを、系統学の方法を用いながら明らかにすることを目的とする。過去および現在の社会的ルールを広く収集したうえで類縁関係と系統分化の過程を推定し、社会的ルールの普及または消滅の軌跡を示す。本研究では、理論を構築するための前提として、無尽講・頼母子講をはじめとする相互扶助の慣習、企業が従っている取引上のルール、組織内のルールなどを調査し、多様な種類のデータを収集した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
この研究では、文化系統学の手法を使った先行研究を検討したうえで、多様な種類のデータを収集した。これらの調査から鍵となる要素として浮かび上がったのは、その時々の経済環境と、人々の集団ないしネットワークである。経済状況や市場が変動していく中で人々がどのようなルールを採用・変更してきたのか、その過程において人々がどのような集団やネットワークを形成または解消してきたのか。学術的にも実践的にも重要なこれらの問いに対して的確な答えを出すためには、事例分析を拡充して諸要素の因果関係を解明することが必要になる。2019年度からは基盤研究（C）に移行し、因果関係についての問いはそこで取り組んでいる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the genealogy of social rules by using the method of phylogenetics. We estimate the process of analogy and phylogenetic differentiation based on a broad collection of past and present social rules, and show the trajectory of the spread or disappearance of social rules. In this study, various types of data were collected by investigating mutual aid practices (including ROSCAs), the transactional rules followed by firms, and the rules within organizations.

研究分野：法社会学

キーワード：社会規範　法　系統学　法社会学　ルール　基礎法学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

社会におけるルール(そこには法や社会規範をはじめとする広範囲のルールが含まれる)は、どのように伝播・普及したり変容したりするのか。ルールの拡散や消滅には多様なパターンがあり、たとえば人々の認知的傾向や、社会構造ないし社会ネットワークといった要素によって左右される。

複雑性や不確実性の大きい状況では、他者が従っているルールを参照して自らも採用するということがしばしば観察される。そのルールの採用過程では、行為主体の環境に応じて適宜読み替えを行ったり、修正を加えたりすることもある。ルールはこのようにして社会の中で進化していくが、その様子を記述し、因果関係を示す理論を構築することが学術的にも政策的にも重要である。

２．研究の目的

本研究の目的は、社会におけるルールがどのような系譜を辿って形作られてきたかを解明することである。その際、系統学（phylogenetics）の分野で開発されてきた手法を活用し，社会的ルールの進化の過程を推定する。もとより、社会には膨大な数のルールが存在するので、限られた研究期間内では研究対象となるルールを絞り込む必要がある。実行可能性を考えて本研究で対象として選定したのは、（１）共同体における協力規範、（２）取引ルール、（３）組織ルールであった。

（１）共同体における協力規範：国内の諸地域で人々の相互扶助のしくみが見られるが、そのルールを調査・分析の対象とする。法律による規制が関わってくるため、複数の異なる社会的ルールが併存したときのルール進化の過程を分析するには格好の素材でもある。

（２）取引ルール：上記の研究を発展させる形で、商人間の取引ルールを調査・分析の対象とする。業界内では商慣習が確立していることが多いが、それは人為的に作られたルールと自発的に形成されたルールが複雑に交錯した規範集合体として存在している。取引ルールがどういうプロセスを経て発達してきたかを分析するため､特定の業界を選定したうえで、業界内で典型的に用いられる契約内容の変遷を明らかにする。

（３）組織ルール：企業や自治体などの組織の内部ルールがいかにして拡散（あるいは消滅）したかを、系統学の分析によって探究する。

３．研究の方法

本研究の根幹をなすのは、調査によるデータ収集と系統学的分析である。文化系統学（cultural phylogenetics）の手法と先行研究を検討したうえで、大別して次の３つの調査に従事している。（ｉ）国内諸地域の相互扶助に関する史料の収集と読解、（ii）市場における取引ルールについての資料やデータの収集、（iii）組織が従うルールの伝播過程（大学の倫理憲章、組織内部での制定法の解釈など）に関する調査である。これらの調査から得られたデータをもとに、ルールの類縁関係と系統分化の過程を推定し、社会的ルールの伝播・普及または消滅の軌跡を示す。

（iii）に関連して、企業を名宛人とする労働法分野の規制法を企業がどのように解釈しているかについて情報を得ることができた（当初の研究の予定には含まれていなかった)。これは具体的な行動を指示する規範が自然に形成されていくプロセスを解明するヒントとなるものであり、これが後述の基盤研究（C）への移行のきっかけのひとつとなっている。

４．研究成果

この研究では、国内（東北・近畿・中国・九州）の無尽講・頼母子講をはじめとする相互扶助の慣習､企業が従っている取引上のルール､組織内のルール､大学の倫理憲章などを調査し、多様な種類のデータを収集した。研究期間３年目までに、これらのデータに基づいた論文を複数発表している。

上記の調査から鍵となる要素として浮かび上がってきたのは、その時々の経済環境と、人々の集団ないしネットワークである（特に無尽講・頼母子講の変遷プロセスは、この点で非常に示唆的であった)。その中で法制度が演じる役割もまた重要である。

経済状況や市場が変動していく環境で人々がどのようなルールを採用・変更してきたのか、その過程において人々がどのような集団やネットワークを形成したり解消したりしてきたのか。

さらに、法制度は人々による自発的なルール形成の中でいかなる役割を果たしうるのか。このような問いに対して的確な答えを出すためには、事例分析を拡充して諸要素の因果関係を解明することが必要になる。

そこで、本研究の 4 年目にあたる 2019 年度からは基盤研究（C）「市場の動態とルールの変遷過程：系統学的アプローチ」（課題番号 19K01258）に移行し、因果関係についての問いに取り組んでいるところである（基盤研究（C）への移行に伴い、本研究は 2018 年度をもって廃止されている）。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 飯田　高	４．巻 27号
２．論文標題 ルールを破って育てる	５．発行年 2018年
３．雑誌名 論究ジュリスト	６．最初と最後の頁 100-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 飯田　高	４．巻 13号
２．論文標題 人々の『信念』と法：The Republic of Beliefsとその周辺	５．発行年 2018年
３．雑誌名 東京大学法科大学院ローレビュー	６．最初と最後の頁 28-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Takashi Iida	４．巻 57
２．論文標題 Emergence, Evolution, and Extinction of Social Norms: the Case of ROSCAs	５．発行年 2017年
３．雑誌名 Social Science Japan	６．最初と最後の頁 34～36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 飯田　高	４．巻 62号
２．論文標題 数理モデルにおける法：規範と法	５．発行年 2017年
３．雑誌名 理論と方法	６．最初と最後の頁 242～256
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11218/ojjams.32.242	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 飯田　高	4．巻 89巻12号
2．論文標題 民泊に関する雑考：市場と法規制	5．発行年 2017年
3．雑誌名 法律時報	6．最初と最後の頁 1～3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 飯田　高	4．巻 89巻2号
2．論文標題 資源配分システムとしての「権利」の形成	5．発行年 2017年
3．雑誌名 法律時報	6．最初と最後の頁 19-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計8件（うち招待講演　4件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 飯田　高
2．発表標題 弁護士実務と社会科学をつなぐ
3．学会等名 第二東京弁護士会・法と経済学研究会（招待講演）
4．発表年 2017年

1．発表者名 飯田　高
2．発表標題 理論研究へのインパクト（挑戦する分析社会学）
3．学会等名 数理社会学会（招待講演）
4．発表年 2018年

１．発表者名 飯田　高
２．発表標題 慰謝料をめぐる紛争：合理性と感情の交錯
３．学会等名 日本法社会学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 飯田　高
２．発表標題 資源配分システムとしての「権利」の形成
３．学会等名 基礎法学学会連合（第10回基礎法学総合シンポジウム）
４．発表年 2016年

〔図書〕　計3件

１．著者名 ダニエル・H・フット、濱野 亮、太田 勝造	４．発行年 2019年
２．出版社 信山社出版	５．総ページ数 592
３．書名 法の経験的社会科学の確立に向けて	

１．著者名 上石 圭一、大塚 浩、武蔵 勝宏、平山 真理	４．発行年 2017年
２．出版社 信山社出版	５．総ページ数 784
３．書名 現代日本の法過程　上巻	

１．著者名 伊藤 滋夫	４．発行年 2018年
２．出版社 日本評論社	５．総ページ数 168
３．書名 基礎法学と要件事実	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考